

学校目標・経営方針		「人間を育てる」	
本年度の重点目標	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現を図り、確かな学力の育成に努める。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	他機関と連携した教育活動を通じて生徒の人間性の育成に努める。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	すべての教育活動を通じて、たくましく、しなやかな心をもった生徒の育成に努める。		C 不十分である。(4割以上)
			D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価				
本年度の重点目標				
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	
1	確かな学力の育成	「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置いた授業改善と、少人数教育・習熟度別教育を生かした学びを実践する。	授業アンケート	
		観点別評価の適切な運用をさらに工夫し、指導の効果や効率を高める。	教職員アンケート	
		ICT教育を充実させ、情報活用能力を育成する。	授業アンケート	
2	生徒の人間性の育成	教科横断的な課題研究を推進する。	授業アンケート	
		あらゆる教育活動を通じて、社会に目を向ける意識を育成する。	事後アンケート	
		地域の小中学生や県内大学、海外姉妹校等との連携活動を実施する。	公開講座等への参加者数	
3	たくましく、しなやかな心をもった生徒の育成	部活動を計画的に行い、生徒の心身の健全な育成と学校の活性化に努める。	各種大会の結果、部活動への参加率	
		交通安全意識や防災対応能力を高める取り組みを行う。	交通事故・違反統計	
		部活動や学校行事等を通して成就感や達成感を得させ、自己肯定感を高める。	事後アンケート	
4	快適な学校環境の整備	生徒に対する観察や声掛けを日常的に行い、いじめや体罰のない学校をめざす。	いじめ調査、体罰調査	
		教職員の業務内容の精選を図る。	教職員アンケート	
		業務の遂行にあたり、お互いに助け合える雰囲気づくりにつとめ、負担感の軽減を図る。	教職員アンケート	
年度末評価（ 1月14日現在）				
自己評価結果			達成度	成果と次年度への課題・改善策
・基礎学力の定着や分かりやすい授業を意識した授業改善に全教員が取り組み、生徒からの肯定的評価も9割に達する。 ・観点別評価の適切な実施にすべての教員が意識して取り組んでおり、客観的な根拠に基づいた評価に努めている。また、評価のつけ方の妥当性について生徒の9割以上が肯定的に見ている。 ・ICT機器を8割以上の教員が積極的に取り入れており、生徒からの評価もそれを裏付けている。			B	・授業改善の更なる向上のため、具体的な取り組み目標を各教員で設定する。 ・教員数が減少する中で、習熟度を考慮した授業展開の工夫が求められる。 ・情報活用能力の育成のため、特に社会的要求に応じて情報リテラシーの育成に努める。
・教科横断的な課題研究や学習活動の実施について、教員、生徒とも8割以上が肯定的に評価している。 ・社会に目を向ける意識の育成は、教員生徒とも8割以上が肯定的に評価している。 ・地域の小中学生や外部機関との連携活動は定着してきており、効果も上がっている。			B	・課題研究の一層の充実を図り、教科横断的な取り組みを強化する。 ・新しい活動を増やすのではなく、今あるものを活用して、社会に開かれた教育課程の実現を図る。 ・地域の異校種の学校等との交流や連携を今後も継続していく。
・部活動が生徒の心身の育成に役立っているという認識は9割に達する一方、勉強とのバランスについては不満を感じる生徒が3割程度いる。教員の負担感も無視できない。 ・交通安全や防災対応の取り組みは9割が肯定的にとらえている。また、交通違反や事故も少ない。			A	・「質の高い文武両道をめざす」という方向性は堅持しつつ、生徒の実態や学校の体制を踏まえ、適正な活動を目指していく。 ・交通安全意識の啓発は一定の効果을挙げている。防災の意識については、主体性を育成する取り組みを強化する。
・全教員がいじめや体罰の根絶を意識し、生徒への気配りや声掛けを通じていじめを生まない環境づくりに努めている。また、生徒評価でいじめや体罰はないという回答が8割を超えた。 ・教員に、業務内容の見直しはこれ以上無理という認識がある。 ・仕事に充実感を感じている教員は9割であるほか、職場の人間関係について助け合える雰囲気があるなど好意的に見ている教員が多い。			B	・いじめ事案には、一方的な思い込みや誤解などに端を発するものがあり、全校集会や学年集会等において講話を通じて生徒の精神的な成長を促してきた。さらに、担任のスキルアップを行い、生徒の成長を促していきたい。 ・学校規模の縮小を見通して教育活動や業務の取捨選択について数年先を見据えて考えていく必要がある。

学校関係者評価	
実施日 (令和7年2月13日)	
評価	意見・要望等
3	・時代に即した指導法や授業の在り方を共有しつつ、改善を進めてほしい。 ・令和5年度の課題がどのように改善されているのか、具体的に示してほしい。 ・6年度の課題、改善策が示されているので、7年度はこの点についての取り組みを強化し、更なる高みを目指してほしい。 ・「主体的・対話的で深い学び」について、授業の手法確立が必要。先進的な取り組みをどう評価して他の職員へも波及させるのか、明示が欲しい。 ・ICT教育の取入れはもちろん重要だが、AIの利活用の実態についても状況を把握するよう検討を進めてほしい。
	・地域の異校種の学校等の交流状況を具体的に知りたい。 ・現代の社会課題について、どう理解しどの問題に切り込んでいくか、校外の協力者とのネットワークを構築し、いつでも応援してもらえるようでありたい。 ・教科横断型や課題研究などの推進は生徒の意識や学力水準などを考慮し、まず過半数の生徒に実施し、これらのうちから具体的な成果を共有するなど、工夫に努めながら徐々に全校に展開できることを期待する。
	・結果だけにこだわる部活動になると「たくましく、しなやかな心」は育てられないのではないかと。生徒が自主的に計画し、取り組み、真の文武両道を目指してほしい。 ・「交通安全や防災対応」は学校環境の整備の領域ではないか。 ・部活動の教員の負担軽減のため校外指導員の取り組みをどのように考えているのか。 ・部活動は、特定の部の部員集中心が他の部員減少につながっており、活動が限定されてしまう。
3	・スクラップ＆ビルド。新しい業務が増えたら古い不要な業務は捨て、教員の負担軽減を図ってほしい。 ・いじめの問題については、意見の取り上げ方など第三者の立場の人間も含む組織による意見も踏まえるなど工夫につとめてほしい。 ・「快適」とは、誰にとってのことか？いじめや体罰がなければ「快適」かと言われるかと考えてしまう。 ・生徒数が減少し教育予算も厳しいと思うが、物理的な環境整備は確実にやってほしい。 ・先生たちのチームワークが良ければ生徒の人格形成にも良い影響があると思う。